



代表取締役社長

# 塩澤好久

昭和37年東京都生まれ。60歳。東京経済大学を卒業後、  
凸版印刷勤務を経て(株)シオザワに入社。  
平成9年代表取締役に就任。剣道錬士六段。

# 初心者もさらに 上達したい人にも有効な 画期的新アイテム



## 剣道グリップ&トレーニング

シャフトは特殊樹脂でつくられている。  
カラーは黒とオレンジの2種類。  
※零ZERO (特許 第7212828号)

# 零 (ZERO)



詳細ホームページ  
<https://kendogrip-zero.jp/>

資料提供・株式会社シオザワ 取材・安藤雄一郎

東京都中央区に本社がある  
紙の専門商社・(株)シオザワが、  
このたび剣道の上達に役立つ新商品の販売を始めた。  
実業団剣道大会にも出場を続けている  
同社としては剣道関連の商品開発は悲願でもある。  
いくつもの紆余曲折を経て完成した  
画期的新アイテムについて、  
同社の塩澤好久社長に語っていただいた。

### いくつかの縁が重なって

剣道の手の内を教えることは非常に難しいと思います。たとえば週に1回の稽古時に正しい握り方を子どもに教えたとして

も、次の週になったら元の状態に戻っていてまたイチから教えないければならない。これは多くの方が経験しているのではないのでしょうか。

ゴルフの世界では正しい握り方を学ぶためのグリップが販売されています。それを見たとき「剣道にもこんな商品があったら初心者教えるためには良いのではないか」と思いました。

そんなことを現在、弊社剣道部の師範を務めていただいている亀井徹先生(範士八段)にお話したところ、「正しい握り子どもに教えるのは大変なんだ」と話されていて、「ならば先生の握り方をかたどったグリップをつくってもいいかもしれないね」と話が盛り上がったのですが、それからコロナ禍になって稽古自体が長く中断されてしまっていました。

弊社の事業は、3つの柱で成り立っていましたが、早く4つ

目の柱を創りたいと思っていました。そして、剣道部を持っている会社として、「メイドインシオザワ」の剣道関連商品をつくりたい、というのが私の長年の夢でした。実際、いくつもの商品を試作してはみたものなかなか実用には至らずにいたのです。

ちょうどそのとき、亀井先生から、「あの話はどうになりましたか」と尋ねられました。歯型を取る石膏職人を知っていたので、最初に彼に相談したところ、「手型をとることは可能だ」と言われました。ただ、型を取れたとしても、石膏では量産が難しい。どうすれば量産ができるのだろうと悩んでいたのですが、そのときゴルフの練習器具を取り扱っている「エリートグリップ」という会社の社外取締役を思い出しました。彼は石膏会社の社長の知人で私の後輩でもあったのです。

この会社にあるゴルフグリップに手型をつけられれば、量産もできるし値段も押さえられると思います、会社に相談したところ、「制作はさほど難しくはないが手型のついたグリップだけなら飽きられるのでは」と指摘されました。私は当初、グリップの先にプラスチックの棒でも

先端がしなる。しっかり振るほどしなりは大きくなり、負荷がかかる。筋力トレーニングとしての効果も期待できそうだと

KENDO grip&training ZERO

くつつければいいかと考えていました。その会社の方からは、「うちで売っているシャフトを一つたらどうか」と提案されました。そのシャフトでスイングの練習を繰り返すと、ヘッドスピードが上がって飛距離が伸びるという効果が期待できます。「これで飛距離が伸びるのであれば、縦に振れば打ちが強くなるんじゃないか」と提案されたのです。

亀井先生にシャフトを持参しご相談をしました。「まず、初心者にとっては手の内が分かる。握りがしっかりできたら上達は早くなる。そして、さらに上達したい人には、刃を身につけるためのトレーニングになる。初心者、さらに上達したい人、どちらにも活かせるぞ。やるべきことがあるなら協力する」と賛同をいただき、製造をスタートしました。

いちばん大変だったのは型をとることです。手型をつくるために石膏職人のところへ亀井先生をお連れしましたが、手形が固まるまでの5分間はまったく動くことができません。何度か失敗を経りましたが、歯型をつくる職人だけに、きわめて精巧な手型ができました。

初心者にとっては、このグ



最初に手型を取るために使った石膏。これを取るために何度もやり直しを経て、完成した

リップを握ったあとで竹刀を持って、手の内の感覚を覚えているからしっかり握れると思います。グリップ部分の長さは3種類用意しましたので、子どもから大人まで対応できていると思います。重さは約450gで長さは120cm。先端に重りがあって、シャフトにしなりが生じるので、振ってみると重量感を感じると思います。

最初からこれをつくらうと思ってスタートしたわけではありませんが、偶然がいろいろ重なり、結果としてできたものです。エリートグリップの取締役が後輩にいて、すぐに会社の上層部の方に会うことができ協力をいただけることになった。それから亀井先生に快く協力してい

ただけた。トントン拍子で話が進んだのです。改めて、商品開発っておもしろいと思いましたね(笑)。

商品名は、私が還暦のときにつくった商品であること(笑)、ゼロから握りや刃を学び直すという意味から、「零」というネーミングをつけました。3月中旬から、ECサイトも設けて販売を開始したところです。

**開発者の私たちが気づけなかった使い方も**

できあがった「零」をある強豪校に送りまして、使用感を尋ねてみました。すると、短期間でいろんな振り方を研究されていました。十種類ほどあったかもしれませんが、とくに強調して

いたのは、「今までは先がしなることを伝えるために、ばらした竹刀の竹を生徒に握らせていました。『零』を振れば刃えやしなりが体感できるし手も痛くない」と。私は大きく振ることしかしていなかったのですが、その監督は左手を固定して振ることで、体幹を強くする方法や刃の研究をされておりました。女子の強豪校の監督さんからは、「女子は非力だからこそ、これを振ることが有効かもしれない」と好評をいただきました。

私自身も1カ月半ほど稽古ができた期間がありまして、その間はこれを毎日50本ずつ、腹筋を意識して振っていました。最初は30秒もできません

でした。久しぶりに稽古をした後、亀井先生からも「いい動きをしていましたよ」と言われました。1日50回でも振れば体内に熱を帯びるので、十分に効果はあると思いました。

私に通っているスポーツクラブに「零」を持っている方いたら、テニスをやっている方に手にとっていただきまして、「胸や二の腕を鍛えたいと思っていて」ところだった。これはいい」と言っていたいただきました。腕を伸ばしたまま手首だけで振ると二の腕にかなり効果的だと言うのです。

今は、開発した私たちのほうが、いろいろな方から有効な使い方を教わっているところですよ。本当に感謝しています。